

地域型DX活用ビジネスの構想と 社会実装のための基礎講座

受講費 **無料**

本講座【前半・基盤講座】

受講方法 **ZOOM**

地域型DX活用ビジネスに興味のある方など
どなたでも参加可能

本プログラムは、北海道の特性（産業・経済・社会の動向）に関する理解に基づき、地域の特性を活かした地域型DX活用ビジネス（デジタル技術を理解して、ビジネスの現場においてデジタル技術の導入を行う全体設計ができる人財＝“ビジネスアーキテクト”）の育成を目的としております。

本講座は、2022年8月以降【前半（基盤講座）7回、後半（応用講座）6回、（ワークショップ）2回】の合計15回で開催致します。以下の通り、【前半（基盤講座）7回】のご案内を申し上げます。

地域型DX活用ビジネスに興味のある方など、どなたでも参加可能です。1回だけの参加も可能です。多くの方々のご参加をお待ちしております。

講座名	開催日時	講師名
【基盤講座】 DX化社会とイノベーション	8月2日(火)	東北大学大学院工学研究科技術社会システム専攻 教授 永松 陽明
AI・データサイエンス	8月9日(火)	北見工業大学工学部 教授 情報処理センター長 升井 洋志
地域型デジタルプラットフォーム	8月23日(火)	中央大学 名誉教授 丹沢 安治
サービス・ビジネスモデル	9月21日(水)	小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻 教授 内田 純一
IoT時代の情報経営	10月4日(火)	中央大学大学院商学研究科 教授 斎藤 正武
サービスサイエンス	11月16日(水)	法政大学経営学部 教授 鴨志田 晃
コンセプトメイキング	オンデマンド 開催 期間 (~9月21日迄)	小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻 教授 内田 純一

申込み・問い合わせ先:

申込みは右記QRコードまたはURLにアクセス

URL <https://forms.gle/SQDb9APy1hnACop7A>

又は以下担当者へ直接メールにてお願いします。

※参加ご希望の方は、各講座の開始前までに必ず参加登録の上、
以下のZOOM URLより参加願います。

<https://zoom.us/j/92065648032?pwd=TUdZcGJaeVRIWmsxZ3hhb2Fic2RVdz09>

ミーティングID: 920 6564 8032 パスコード: 441957

北見工業大学工学部地域国際系・藤井享宛

(北海道国立大学機構リカレント教育講座担当教員)

TEL: 090-8034-5406/ E-mail: toru-fujii@mail.kitami-it.ac.jp



主催：北海道国立大学機構（小樽商科大学・帯広畜産大学・北見工業大学）

◎本講座

●開講日時 2022年8月2日(火) 18時30分～20時

●講演テーマ DX化社会とイノベーション

●講演者 永松 陽明 (東北大学大学院工学研究科技術社会システム専攻 教授)

●講演者略歴

1996年東京学芸大学卒業、1998年横浜市立大学大学院修了。2002年、東京工業大学大学院博士課程を修了し、博士(工学)を取得。同年、株式会社日立製作所生産技術研究所に入所し研究業務に従事。2011年、日立建機株式会社に出向し本社管理部門にて分析業務に従事。2013年から横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科准教授。2021年、教授。2022年から現職。ITを経営に活用する経営システム研究と技術を効率的に創出する技術経営研究を進めている。

研究・イノベーション学会理事(非常任)、日本経営システム学会常任理事、日本品質管理学会評議員、国立国会図書館調査及び立法考査局非常勤調査員などを務める。

これまでにIAMOT(International Association for the Management of Technology) Research Publication Awards(2009年)、日本品質管理学会品質技術賞(2013年)、プロジェクトマネジメント学会論文賞(2011年)を受賞。研究成果は、Technovation、Energy Policy、日本品質学会誌『品質』、日本経営システム学会誌などに掲載。

●講演概要

DX(デジタルトランスフォーメーション)や超スマート社会などデジタル化が最近の話題となっている。本講演では、DX事例を紹介し、進め方や効果を解説する。

また、話題となった経営手法の企業導入、不具合を低減させる仕組みの開発、製品の需要予測、地方企業との取組など、これまで担当した業務・研究を通じて、経営の仕組みを変えていく難しさやビッグデータなどデータを分析していく重要性を解説する。

◎本講座

●開講日時 2022年8月9日(火) 18時30分～20時

●講演テーマ AI・データサイエンス

●講演者 升井 洋志 (北見工業大学 情報通信系教授・情報処理センター長)

●講演者略歴

現在、北見工業大学 情報通信系教授・情報処理センター長、CSIRT長、北海道国立大学機構オープンイノベーションセンターデータ統合ICT利活用部門長を務める。

北海道大学理学部、大阪大学大学院理学研究科で原子核理論を研究。その後北海道大学にて研究員(工学部および学振研究員)、理化学研究所基礎特別研究員を経て、北見工業大学准教授(就任時は「助教授」)から教授となり現在に至る。また、2000年から2002年にかけて1-2ヶ月の短期で南アフリカ大学(UNISA)博士研究員、台湾中央研究所博士研究員も務める。

主な研究テーマはデータに基づく公共交通機関の解析、クラウド統合マネジメント、観光情報工学、原子核理論。理論モデルによる数値シミュレーション、データ解析、データ統合・アプリケーション統合による共同研究環境構築等をつうじて「理論とデータに基づくサイエンスイノベーション」を目指す。

●講演概要

我々の暮らしを支えるテクノロジーは、多くのデータとそれに基づく技術からなり、とくに最近では「データサイエンス」の重要性がクローズアップされている。データサイエンスは、膨大なデータとそれを処理する手法、物理法則や経験則に基づく理論からくるシミュレーション等、さまざまな基礎技術が有機的に融合されることで進歩してきた。また、AIに代表されるデータ処理を「複雑な判定器の組み合わせ」として取り扱う手法もこの数年で飛躍的に進んできた。本講演では、AIおよびデータサイエンスの歴史と今後について実際の適用例を交えながら紹介する。

◎本講座

●開講日時 2022年8月23日(火) 18時30分～20時

●講演テーマ 地域型デジタルプラットフォーム

●講演者 丹沢 安治 (中央大学 名誉教授)

●講演者略歴

1977年慶応義塾大学商学部卒業、1977年から1980年慶応義塾大学商学研究科、1980年から市邨学園女子大学助手、1980年から2002年まで専修大学専任講師、助教授、教授を歴任、2003年から2022年まで中央大学総合政策学部教授、2008年に戦略経営研究科(ビジネススクール)の設立にかかわり、2013年まで併任、2014年から戦略経営研究科教授に移籍し、2022年まで専任を務める。2022年4月から中央大学名誉教授。

ビジネススクールでは、「ビジネスエコノミクス」、「ビジネス・エコシステム」「新興国ビジネス戦略論」を担当し、制度の経済学や取引費用理論をベースとした非市場戦略といった視点から、プラットフォームビジネス、新興国におけるビジネス・エコシステムの形成に関心を持っている。2022年1月には「ドイツ製造業において進行するInd.4.0と日本の製造業の企業戦略-3つの薄れゆく産業境界」成城大学『社会イノベーション研究』、2022年10月には、「プラットフォーム新時代におけるクレジットカード事業の新構想ーキャッシュレス決済のエコシステムにおける主導的地位を求めてー」、『CCR』掲載予定。

●講演概要

プラットフォームビジネスは今日、GAFA(グーグル、アマゾン、メタ<フェイスブック>、アップル)など、世界で最も企業価値が高い10社によって展開され、時価総額は計3兆ドルを超えると喧伝されている。また、アリババやテンセントなどの中国IT企業の時価総額もそれぞれ4,000億ドルを超える。本講演ではこのビジネスモデルの基本的な構造とそこにおける代表的な戦略を説明し、実際に日本において行われているケースに展開した後、地域型デジタルプラットフォームの組み立てと、予想される戦略に言及する。

◎本講座

●開講日時 2022年9月21日(水) 18時30分～20時

●講演テーマ サービス・ビジネスモデル

●講演者 内田 純一（小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻・教授）

●講演者略歴

1995年にAFLAC日本社(現 アメリカンファミリー生命保険株式会社)入社後、7年間の在職中に情報ネットワーク部門や営業マーケティング部門に勤務。2002年より北海道大学大学院国際広報メディア研究科・助手となり教育研究の道に転身後、北海道大学観光学高等研究センター・准教授などを経て、2017年より現職。本務のビジネススクールではサービスマネジメントとビジネスプランニングの講義を主に担当。

現在、日本ベンチャー学会理事、戦略研究学会理事、北海道都市地域学会理事。

著書に、『地域イノベーション戦略：ブランディング・アプローチ』（単著、芙蓉書房出版）、『観光の地域ブランディング』（共編著、学芸出版社）、『観光まちづくりのマーケティング』（共著、学芸出版社）、『観光情報学入門』（分担執筆、近代科学社）、『いま私たちをつなぐもの：拡張現実時代の観光とメディア』など。

長年、IT産業集積地や、観光地ブランディングなど地域・観光フィールドの研究に取り組んできており、現在もICTやソーシャル・メディア技術を援用した新しい観光や、サービス・ビジネスモデルの応用研究に取り組んでいる。

多摩大学経営情報学部卒業、北海道大学大学院経済学研究科修士課程修了、博士(国際広報メディア)(北海道大学)。

●講演概要

サービス経済化が進行し、いまやSaaS、MaaSといったキーワードに特徴的に見られるように、「サービスとしてのX(X as a Service)」でビジネスを発想することが常態化しています。かつてのトップメーカーですら、<サービス企業>や<コネクテッド企業>を自称する時代です。では、サービスを軸に構想する現代のビジネスモデルは、従来型のビジネスモデルとはいったい何が違うのでしょうか。本講演では、ビジネスモデルキャンバスやカスタマージャーニー・マップなど、新たなビジネスの構想・設計に便利なツールを紹介しながら、DX時代のサービス・ビジネスモデルについての理解を深めていきます。地域特有の起業環境を味方につけるビジネスモデルの発想法についてもお話しします。

◎本講座

●開講日時 2022年10月4日(火) 18時30分～20時

●講演テーマ IoT時代の情報経営

●講演者 斎藤 正武 (中央大学大学院商学研究科 教授)

●講演者略歴

1968年長野県生まれ。1991年青山学院大学理工学部経営システム工学科卒業後、同学科大学院進学、博士後期課程満期退学。学位は、博士(工学)取得。2003年より中央大学商学部に入り、現在、中央大学商学部教授となる。2009年から2011年ボストン大学客員研究員。現在の担当科目は、技術経営論、IoTサービスクリエーション、特殊講義(情報サービス産業研究—変わりゆくIT開発現場)、GPPプログラム科目(グローバルキャリア/タイ)、演習科目などを担当する。著書は、経営工学総論(放送大学教育振興会)、医療ビジネスとICTシステム — 医療を巡る今日的課題 — 他、研究論文は、製品開発支援システムの開発、技術総合重要度評価システムの開発、学術論文の研究系統図自動生成に関する研究他多数。現在、中央大学学長補佐(社会連携、SDGs、教育DX担当)など、大学の要職を歴任している。

●講演概要

2014年に経済産業省が「IoT時代に対応したデータ経営2.0」を促進してから久しいが、その後、IoT関連の技術発展の目覚ましさと共に、コロナ禍等の未曾有の事態からモノやコトの価値観が激変するような事態が生じている。講義では、2014年に国が打ち出したIoT時代のデータ経営をベースとして、新技術や価値観の変貌などについて解説し、2018年に内閣府が目指すべき未来社会としての姿を示したSociety5.0に関して展望する。

◎本講座

●開講日時 2022年11月16日(水) 18時30分～20時

●講演テーマ サービスサイエンス
DX時代のサービス起業論～サービス科学の視点とデザインアプローチ(仮題)

●講演者 鴨志田 晃 (法政大学経営学部 教授)

●講演者略歴

現在、法政大学経営学部教授。デジタルハリウッド大学院客員教授、城西国際大学大学院、早稲田大学ビジネススクール非常勤講師を兼務。

横浜市立大学学術院国際総合科学群教授、名古屋商科大学ビジネススクール客員教授、京都大学、英国ケンブリッジ大学 Service Allianceボードメンバーを歴任。その他、社外取締役、経営アドバイザー他。

東京電力、日本総合研究所、デロイトコンサルティング、シスコシステムズの執行役員、統括パートナー日本代表等を歴任。この間、大手電機メーカーや通信業、電力ガス会社、官公庁、金融機関、中小企業のコンサルティングに従事。

英国ロンドン大学経営管理大学院IEP修了、慶應義塾大学経営管理大学院修了。MBA、博士(工学)(東京工業大学) 専門領域はサービス科学、システム科学、経営戦略論。

現在の研究テーマは、製造業や社会システムのDX(デジタルトランスフォーメーション)。デジタル起業論など。

●講演概要

今日の経済社会はサービス社会、デジタル社会の時代と言われている。我が国は、失われた20年、30年と揶揄されて久しいが、その底流では新たな動きも生まれている。経団連は、時価総額10億ドルの未上場企業であるユニコーン企業を今から5年後の2027年までに150社にするとの目標を掲げた。それは、日本の経済ポテンシャルからすれば、無謀な数字でもない。今日我が国では、あらゆる分野でDXの必要性が叫ばれているが、実はそこにはサービス化が不可欠である。GAFAMと呼ばれる米国のITジャイアントの存在からも示唆されるように、経済社会そして産業システムのDX化とサービス化は車の両輪である。本講演では、こうした昨今の状況についてレビューした上でDX時代のサービス起業について考察し、展望を行う。

●開講日時 一定期間(~9月21日まで)オンデマンド配信 ※以下URLにアクセスしてください。
<https://recurrent.otaru-uc.ac.jp/video/>

”2022アーカイブ配信”に以下3つの動画を設定していますので、視聴したい動画のサムネイルをクリックしてください。

・DX01_コンセプトとSTP ・DX02_コンセプトメイキング事例 ・DX03_大転換期にあるビジネスモデル

パスワード入力を求められますので、「dx2022(小文字のディー、エックスに続いて2022)」を入力してください。再生ボタンを押すと動画が視聴できます。

※サイトには他の動画のサムネイルも設定されていますが、視聴することはできないようになっています。

●講演テーマ コンセプトメイキング

●講演者 内田 純一 (小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻・教授)

●講演者略歴

1995年にAFLAC日本社(現 アメリカンファミリー生命保険株式会社)入社後、7年間の在職中に情報ネットワーク部門や営業マーケティング部門に勤務。2002年より北海道大学大学院国際広報メディア研究科・助手となり教育研究の道に転身後、北海道大学観光学高等研究センター・准教授などを経て、2017年より現職。本務のビジネススクールではサービスマネジメントとビジネスプランニングの講義を主に担当。現在、日本ベンチャー学会理事、戦略研究学会理事、北海道都市地域学会理事。

著書に、『地域イノベーション戦略:ブランディング・アプローチ』(単著、芙蓉書房出版)、『観光の地域ブランディング』(共編著、学芸出版社)、『観光まちづくりのマーケティング』(共著、学芸出版社)、『観光情報学入門』(分担執筆、近代科学社)、『いま私たちをつなぐもの:拡張現実時代の観光とメディア』(分担執筆、弘文堂)など。

長年、IT産業集積地や、観光地ブランディングなど地域・観光フィールドの研究に取り組んできており、現在もICTやソーシャル・メディア技術を援用した新しい観光や、サービス・ビジネスモデルの応用研究に取り組んでいる。

多摩大学経営情報学部卒業、北海道大学大学院経済学研究科修士課程修了、博士(国際広報メディア)(北海道大学)。

●講演概要

事業コンセプトを決定することは、「これはきっとビジネスになる!」というアイデア段階と、具体的で緻密なビジネスモデルを設計する段階との橋渡しをする大事なステップです。よく事業コンセプトの骨格は、2W1Hすなわち「Who(誰に)」、「What(何を)」そして「How(どのように)」提供するのかを決める作業にあると言われ、コンセプトメイキングについての解説本も巷にあふれていますが、本講演はサービス事業に特有の7P・8Pを意識することが必要な点や、顧客ターゲット設定の戦略定石がSociety5.0の時代にガラリと変わってしまった点にも着目し、DX環境に対応したスタートアップの事業コンセプト発想法について解説していく点に新奇性があります。事業コンセプトを構想するヒントとなるトピックや、関連事例も豊富に紹介しますので、本講演によってコンセプトメイキングの手法と具体例を学び、ビジネスモデル構築実践のための準備をしていきましょう。